

桐生市議会 教育民生委員会 行政視察報告書

視察都市 福岡市（人口 1,645,364人 令和6年3月1日現在）
認定 NPO 法人 箱崎自由学舎 えすぺらんさ

視察日時 令和6年5月15日（水）
午後2時30分～午後3時30分

視察項目 ・福岡県内のフリースクールの現状と課題について

◎視察概要

視察項目 ・福岡県内のフリースクールの現状と課題について

（1）説明要旨

ふくおかフリースクールフレンドシップ協議会事務局長であり、認定 NPO 法人 箱崎自由学舎 えすぺらんさ 副代表の上村一隆様よりお話を伺った。

【認定 NPO 法人 箱崎自由学舎 えすぺらんさ学舎 概要】

※学校に居場所が無い、学校が苦しい等で不登校を選択した子どもたちが元気になるフリースクール。「みんな違ってみんないい」を大切にしている。

住所：福岡市東区箱崎 3-18-8

TEL：092-643-8615/FAX：092-643-862

MAIL：info@esperanzahp.jp

URL：<https://www.esperanzahp.jp/>

開所時間：月曜日～金曜日（祝除）9:00～17:00

理事長：樋口健蔵

代表：小田哲也

指導体制：常勤スタッフ4名/非常勤カウンセラー1名/
ボランティアスタッフ12名

対象：福岡県近郊（通学可能な範囲）の小学4年生～概ね20歳

費用：小学生フリースペース利用

14:00 まで1日2,500円/17:30 まで1日4,000円

中学生

入学金なし

施設利用料 年額 100,000 円

授業料 月額 35,000 円

高校生

入学金なし

施設利用料 年額 100,000 円

授業料 週3日コース月額 30,000 円/週5日コース月額 50,000 円

※中高生1日利用料金の設定あり。

【フリースクール事業】

- ・基礎学力習得のための学習活動
- ・自主性を育む活動、自然体験、ボランティア活動など
- ・社会適応力を養う活動として、仕事体験、野外体験など

【教育相談事業】

- ・不登校児童・生徒や高校中退者及び家族に対する教育相談事業
- ・「子どもの育ちを語る井戸端会議」
「不登校経験者の声に耳を傾ける座談会」
「不登校生の進路進学を考える教育相談会」の開催

〈保護者との関わり〉

- ・学舎保護者対象

保護者懇談会・懇親会

年に2回、活動の様子と保護者間の交流の場として開催

個別面談

年に2回、個別面談を実施/その他必要に応じて随時実施

中学3年時、高校最終学年時には三者面談を実施

- ・一般の方対象

子どもの育ちを語る井戸端会議

毎月1回土曜 13:30～

孤立感を解消し、悩みを共有する場として開催

不登校経験者の声に耳を傾ける座談会

年に2回、不登校経験を持つ若者、保護者の声を聞くパネルディスカッションを開催

〈学校との関わり〉

毎月の出席の報告などを学舎から学校に行く。学校と教育委員会の判断になるが多くの場合出席扱いになる。出席扱いになれば、通学時の交通費は学割が適用となる。

学校との併用も可能であり、週3日はえすぺらんさ、週2日は学校へ通う子どももいる。

中学校の定期考査を受験可能な場合もあり、本人の希望に合わせて学校と交渉する。

【現状として】

- ・福岡県の傾向として、不登校支援を旨とするフリースクールよりも、教育選択としてシュタイナー教育やサドベリースクール、イエナプランなどを行うオルタナティブスクールが増加している。
- ・休眠預金活用事業を利用し、不登校の家庭を支援する研究会を発足し、フリースクール間の連絡調整、意見交換、広報、ロビー活動を行っている。
- ・フリースクールフレンドシップ協議会では、福岡市内の子どもたちの多様な学びを支える居場所情報誌を発刊し、情報発信をしている。

(2) 主な質疑応答

Q. 指導要録上の出欠や学習評価の取扱いについて

A. 福岡ではフリースクールの出席扱いのハードルは高くない。福岡市の場合、不登校児童生徒総数の約5%が出席扱い。全国的には1%にも満たない数値。

課題としては、学習評価については学校によってばらつきがあること。正規の評価としての成績反映事例もあれば、参考点という事例もある。

Q. 民間施設への助成金等の公的支援はあるか？

A. 福岡県は全国でもいち早く2007年度からフリースクール活動助成制度を行っている。担当部局は福岡県人づくり県民生活部私学振興課。課題としては上限200万円であること。

《受給条件》

- ①法人格を取得していること(現状NPO法人・医療法人のみ)
- ②複数名の児童生徒が在籍していること
- ③そのうちの最低1名が在籍校の出席認定を受けていること

Q. 連携している関係機関について

A. フリースクール助成の窓口は福岡県私学振興課だか、連携という事例はあまりない。福岡市教育委員会とFS意見交換会の実施し、市教委教育相談課に伝達される。上村さんが県、市共に不登校関連の委員に委嘱されているので関係機関は多いが、現時点では事業連携というよりも情報共有が中心である。

Q. ふくおかフリースクールフレンドシップ協議会としての対外的な取組は？

A. 主な取り組みとしては情報発信。

「多様な学びを支える居場所情報誌」の発行と行政機関との情報共有、市内中学校の教育相談コーディネーター研修会での講話、フリースクール合同の相談会の実施、フリースクール・オルタナティブスクール立ち上げ相談、不登校親の会の支援、各種講演活動など

(3) 参考なる点及び課題

【参考】

- ・出席認定の取得、状況に応じた調査票のやりとりなど学校現場との密な連携について
- ・休眠預金活用事業を利用し、不登校の家庭を支援する研究会を発足し、フリースクール間の連絡調整、意見交換、広報、ロビー活動を行っている点
- ・フリースクールフレンドシップ協議会では、福岡市内の子どもたちの多様な学びを支える居場所情報誌を発刊し情報発信をしている点

【課題】

- ・学習評価について、学校や教師によってばらつきがあること
- ・フリースクール運営の資金繰りについて
- ・フリースクール利用の家庭への公的負担について

◎視察成果による当局への提言または要望等

- ・教育委員会、フリースクール運営者、PTA協議会、議会、フリースクール利用保護者が子どもの側に立ち、子どもたちにとってより良い教育環境を整備することが重要であるため、多様な学び方への理解と実践についての調査研究を要望いたします。
- ・子どもたちの豊かな育ち、多様な学びを支えていくための『フリースクール・オルタナティブスクールの安定した運営環境の構築』『家計への公的負担のあり方』についての調査研究の要望いたします。